



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No10
文責 芹川博文
6月13日(金)

「待つ」ことの大切さ 成長のタイミングはそれぞれ ～ プール掃除で見つけたヤゴがトンボに ～



水槽をのぞくと・・・久しぶり見ました。ヤゴ（左の写真）です。プール掃除の時に3年生が発見した3匹のヤゴを、1組担任の松山先生が「子どもたちの学びになる」との直感で教室に持ち帰り、水槽で飼うことにしたそうです。子どもたちが棒を持ってきて立てかけると、数日後、1匹目のヤゴは上って抜け殻に。辺りを探すと廊下の壁にトンボ（右の写真）が止まっていたとのこと。数日後、2匹目も抜け殻になっていました。

ヤゴの世界も、それぞれのタイミングがあると感じた出来事でした。「その時」が来ると水から上り、殻を破り、羽を広げてトンボになって飛び立つ・・・「その時」は自分しか分かりません。周りが他と比べて「遅いぞ」とか言うことでもありません。ましてや、無理に上らせたり殻を破ったりすることでも。できることは、3年生の子どもたちがしたように、棒を立てかけること。

ヤゴからトンボになる姿から、「待つ」ことと、適切な支援の大切さを考えさせられました。

便利な世の中になりました。いかに簡単に、速くできるか、現代社会はそればかりを追い求めてきたように思います。そして、その中で遅いことがまるで悪いことであるかのように錯覚しているのではないのでしょうか。

ストレス社会、キレる子ども。以前はなかったことばです。いつの間にか私たちは「待つ」ということを忘れてしまったのではないかと。「待つ」ことには楽しみもあるのです。夢は待っている間に膨らんでくるのです。

たとえば、花には花の時間があります。種をまき、芽が出て、やがて花が咲く。人間がいくら早く咲かせようとして、つぼみを無理やりこじ開けても、枯れてしまうだけです。

（「いのちより大切なもの」星野富弘 著より）

土を見つめよう
どんな時でも 花はあふると
土からは 何もない
同じ時間をかけて 芽生える
何十年も 何百年も
生きているものばかりだ
土から生えたものを 食らいながら
人だけが
なせぬものに育っていく

富弘

15分間のそうじでこんなにきれいに



こちらは草取りのピフォー・アフターです。昼休み後の15分間の無言掃除。子どもたちのがんばる姿が素敵です。上の写真は3日間で「仕上げた」花壇の様子。「おばあちゃんが、いつもやっています」と言いながら慣れない草取りガマの使い方を覚えた子もいました。学校では今も雑巾や箒（ほうき）、チリ取りを使います。家庭では使わなくなった物も多いかもしれません。しかし、「昭和のよさ？」も感じながら、みんなで頑張り、きれいになった場所を眺めるのは気持ちの良いものです。

今年度隈府小は、自律を目指し「あいさつ、そうじ、じかん」の3つを重点に取り組んでいます。